

令和4年6月 定例教育委員会会議録

開催日	令和4年6月29日(水)
開催場所	半田市役所 庁議室
出席委員	教 育 長 鈴 川 慶 光 委 員 新 美 大 委 員 榊 原 肇 委 員 久 米 宏 和 委 員 桂 優 子 委 員 正 村 日 登 美
説明のため出席した職員	教 育 部 長 岩 橋 平 武 学 校 教 育 課 長 森 田 知 幸 主 任 指 導 主 事 鈴 木 康 弘 指 導 主 事 高 下 隆 史 給 食 セ ン タ ー 所 長 前 田 成 久 生 涯 学 習 課 長 青 木 美 希 ス ポ ー ツ 課 長 加 藤 計 志 ス ポ ー ツ 課 主 幹 長 坂 壮 浩 図 書 館 長 山 下 由 美 博 物 館 長 関 正 樹 南 吉 記 念 館 長 遠 山 光 嗣
事務局	学校教育課総務担当副主幹 渡辺 富之
報告事項	(1) 寄附、後援願等について (2) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について (3) 令和4年6月半田市議会定例会の報告について (4) 「各種事業について」 ・夏休み親子公共施設見学について ・子ども科学体験教室について ・ものづくり教室について ・まなびとゼミ夏休み特別講座・夏いち体験講座について ・新美南吉読書感想画コンクールについて ・「夏休みは図書館へ行こう」(夏休み図書館行事)について ・特別展「南吉の昭和17年」の開催について ・新美南吉誕生祭の開催について
各課事務連絡	(1) 文化財親子体験講座「半田市指定史跡【大池古窯】見学会」について (2) 博物館講座「化石を発掘しよう!～木の葉化石編～」について (3) 博物館講座「天然石できれいな万華鏡を作ろう!」について (4) 「旧中埜家住宅オリジナルポストカード」のプレゼントについて (5) 山車の展示について

〈 開会 10時 〉

1. 前会の会議 録の承認	(事務局) 5月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	<p>(教育長)</p> <p>コロナ禍の状況について落ち着きを見せつつあるが、今年度に入ってから陽性者数を確認したところ、4月が113名、5月が121名、6月に入ってこれまでのところ26名となっている。近隣市で学年閉鎖している学校もあるので、感染拡大の可能性もあることを踏まえ、各学校には最善を尽くし最大の配慮をするなかで学校運営するよう指導している。</p> <p>運動会について、春に開催した学校は6校で児童生徒が密集しないことを前提にマスクを外すことを促しているが、全児童生徒がマスクを外すまでには至っていない現状。運動会中は子どもたちの健康状態を見ながら進行し、大きな問題もなく終わることができた。</p> <p>学校訪問では、教育委員の皆様にも足を運んでいただき、各学校の普段の様子や特色を活かした活動など見ていただいている。特色のひとつとして、タブレットを用いた授業については今後も積極的に活用を呼びかけるとともに、活用方法等についても更なる研究が必要である。</p> <p>商工会議所と連携したキャリア教育として職場体験を通じてやってきたが、これまでのやり方を一部見直したいと指導主事とともに説明をさせていただいた。具体的には、これまで3日間程度の体験活動を行ってきたが、年間を通じた長期的な体験活動によって、受け入れ企業の従業員との意見交換なども取り入れるなど、半田中学校をモデル校として試行する。今後は受け入れ側企業の理解を得る中で、他校へも広げていきたい。</p> <p>コロナ禍の影響で直近2年間、紙面開催であった子どもサポート会議が6月8日に会議形式で開催された。不登校対策を中心に発足した会議であるが、現在は虐待など協議内容も多岐に及んでいる。子どもたちをサポートする様々な機関の方々と意見交換等できる貴重な協議体であり、本市のこの取組みは多方面で高く評価されている。</p> <p>市内小中学校長との面談を行っており、各学校の今年度の取組みや重点事項、児童生徒や教員の様子など直接聞く機会を設けている。現場での困りごとなど把握し教育委員会としてどのようにサポートすべきか検証している。</p>
報告事項 1) 寄附、後援 願等	<p>(学校教育課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7団体より寄附。 <p>(内訳：書籍、茶道具、モルック、現金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7件の共催事業を許可。 ・28件の後援名義を許可。 <p>(委員からの質問等なし)</p>

<p>2) 児童生徒 (園児)の交通 事故・問題行動 等</p>	<p>(指導主事) 令和4年5月20日～6月24日の交通事故・問題行動等について。 交通事故：3件 5月22日(日)1件 5月24日(火)1件 6月7日(火)1件 問題行動(被害)等：8件 5月20日(金)1件 5月27日(金)1件 6月2日(木)1件 6月6日(火)1件 6月16日(木)2件 6月17日(金)1件 6月18日(土)1件 交通事故以外の事故：4件 5月25日(水)1件 6月1日(水)1件 6月3日(金)1件 6月20日(月)1件 学校等被害：なし 不審者情報：5件 5月25日(水)1件 6月3日(金)1件 6月7日(火)1件 6月17日(金)1件 6月22日(水)1件</p>
<p>3) 令和4年6 月半田市議会定 例会の報告につ いて</p>	<p>(教育部長) 6月の定例会にて、前回定例教育委員会にてお諮りした補正予算、博物館、南吉記念館のふるさと納税に関する補正、乙川中学校改築工事の資材高騰に伴う増額補正、各小中学校に設置するスピーカーマイク購入費補正について、すべて可決された。 一般質問については、7名の議員から質問があり、そのうちの2名が教育委員会に関する質問であった。 市民ネットの中村和也議員からは、主題「外国にルーツを持つ子どもたちへの教育促進について」、質問の1点目として外国にルーツを持つ児童生徒の就学状況はどのようになっているかというもので、答弁として5月1日現在で260名が就学しており、その他にも一定数の外国籍の子どもたちが外国人学校などに在籍している現状を説明した。 質問の2点目として、日本語初期指導教室と日本語適応教室の現状について、答弁はまず日本語初期指導教室の現状として、来日直後などで日本語がほとんど理解できない児童生徒に対して初期の日本語や学校生活指導を、一定期間短期集中的に行なうものとして、昨年は、小学校2校でそれぞれ3カ月ずつ実施。</p>

今年度は現在、中学校 1 校で実施しており、その後は小学校 2 校でそれぞれ 3 カ月ずつ実施することを説明した。

日本語適応教室については、授業の内容を理解する上で必要となる日本語指導を特定の教科の時間中に別室で行うもので、5 小学校と 2 中学校で愛知県から教員が追加配置されている現状を説明した。

質問の 3 点目と、4 点目は関連していたため一括して答弁し、質問として日本語指導に係る教員や支援員などの人数と配置状況。合わせて、その方たちの待遇についての質問。

答弁として、愛知県教育委員会から 16 名の教員が追加配置されており、また、ポルトガル語などの語学相談員も学校からの要望に応じて県から派遣されている現状を説明した。加えて、通訳や翻訳を行う外国人生活支援員として月給制の方を 1 名、時間給制の方を 3 名配置しており、タガログ語や中国語などの通訳が必要な場合には、その都度語学指導員を派遣するほか、ボランティアの方にもお手伝いをいただいていることを説明した。

質問の 5 点目として、義務教育課程における外国にルーツを持つ児童生徒への対応についての課題と評価について、答弁として日本語指導が必要な児童生徒数が非常に増加傾向にあり、言語の多様化や指導者の人材不足、居住地域の広がりなどにより、すべての子どもたちに十分な対応が困難な状況下ではあるが、日本語初期指導教育を実施したことにより全く日本語が話せなかった子どもたちが、短期間で学校生活に馴染むことができるようになるなど、一定の成果が得られていることを説明した。

質問の 6 点目と、7 点目は関連していたため一括して答弁し、質問として日本語初期指導教室及び日本語適応教室を明確に区分した拠点校を設置し、集中的に取り組むことで効果的、効率的にやるべきではないか、また、拠点校を設けた場合の課題についてどのように考えているかという質問。

日本語初期指導教室は、教室を使った対面式の指導を基本としており、昨年度は設置校の在籍児童のみを対象としたが、今年度は設置校以外の学校からも参加できるようオンラインによる遠隔授業を始めた。オンラインにより多くの児童が授業を受けることにはつながったが、低学年の児童に対する指導等は難しい面もあり、対面式の授業が効果的であった。

拠点校に集まって多くの児童が触れ合いながら日本語を学ぶことでの効果は期待できる一方で、拠点校方式とした場合には送迎が必要となることや拠点になった学校や地域に多くの外国籍の子どもたちが集中することが想定され、その際にどのような対応が必要となるかという課題を説明した。

また、県からの派遣教員は日本語教育を必要とする児童生徒の在籍数に応じての配置されるため、拠点校に集中することで日本語適応指導教室の無い学校が増えてしまう課題も説明した。

質問の 8 点目として、日本語初期指導に外部の人材をさらに活用し充実させることで質の高い教育につながるのではないかという質問。

現在 NPO 法人に委託しているとともに、様々な団体がボランティアの方にも協力をいただいているが、今後も多くの外部の人材を活用していきたいと説明した。

次に主題の 2 点目。「幼稚園保育園の子どもたちに対する支援について」の質問。

質問の 1 点目と、2 点目は関連していたため一括して答弁し、未就学児への支援は
どうなもので、その支援に関わっている教員や支援員などの人数配置状況や待遇につ
ての質問。

幼稚園保育園に在籍する外国にルーツを持つ園児は園での生活の中で日本語や、
日本の生活様式を習得しているが、発達や日本での生活経験等の違いから日本語の
理解が充分ではない園児があり、個々での差がある現状を伝え、現在、保育園では 4
園で月に 2 回日本語の指導員を配置し園児を支援するとともに保護者に対しての通
訳を行っており、幼稚園でも同様に外国人生活支援を各園に派遣し、園児や保護者
を支援していることを説明した。

質問の 3 点目として、プレスクールとして拠点園を設けるべきではないかという質問。

幼児期の子どもたちは、毎日の園での生活の中で友達や先生と触れ合いながら日
本語を覚えたり、日本での生活についての理解を深め、保護者よりも早く日本語を習
得し先生や友達との会話を楽しむ園児もたくさんいる状況にあり、日本の生活様式を
学ぶ特別な場所としてのプレスクールには価値を感じているが、現在のように園での生活
や遊びを通じて、多くの園児や先生たちと触れ合い、コミュニケーションを取る中で、日本
語や日本の生活を習得するよう取組んでいくことを説明した。

続いて鈴木健一議員から、主題として「教員の働き方改革について」の質問。

質問の 1 点目として、現在の教員の配置状況について。

定数の定義として、学級数等に応じて機械的に算出される基礎定数と目的に応じ
て配分される追加配置定数に分けられており、6 月 1 日現在では基礎定数分はすべて
配置されているが、追加配置定数分については 3 名の未配置となっており、加えて、育
児休業者の補充教員と退職者の補充教員がそれぞれ 1 名が未配置となっており、合
計 5 名の未配置の現状ではあるが、教務主任や校務主任の先生方が授業に入るな
ど、学校の頑張りの中で滞りなく運営していただいていることを説明した。

質問の 2 点目として、教員の在校時間の把握はどうしているかという質問。

文部科学省より示された指針に基づき、出退勤時刻を記録するクラウド型勤怠管理
システムを活用して管理していることを説明した。

質問の 3 点目として、休憩の実態はどうなっているかという質問。

休憩は法律に基づいて、7 時間 45 分の勤務時間中に 45 分の休憩を与えなけれ
ばならないことになっており、各学校では愛知県の指針に基づき休憩時間 45 分を 2 回
に分けて付与し、その時刻は日課表で示していることを説明した。

質問の 4 点目として、タブレットを活用している教員の現状を把握しているかという質
問で、趣旨としてタブレットを導入したことで先生方はますます忙しくなっているのではない
かというもの。

学校訪問や各種会議での情報交換などにより活用頻度や習熟度の把握に努めて
おり、タブレットの導入期には多くの教員が使い方の習熟に苦労していたことは事実で、
ICT 支援員や学校ヘルプデスクの活用、研修や教員相互の教え合いで、現在では学
校生活のさまざまな場面で活用が進み、今後はタブレットを活用することで教員の仕事
の効率化に効果を発揮するものとして期待していることを説明した。

	<p>(新美委員) 昨年度行った日本語初期指導教室の成果をどのようにとらえているか。</p> <p>(学校教育課長) 具体例として、名前を聞かれても答えられないほどの日本語の理解力であった児童が、当該教室を利用したことで楽しく学校生活を送られていると報告を受けている。理解力に個々の差はあるものの、全く話せなかった児童にとっては大変有益な教室となっている。</p> <p>(新美委員) 一足飛びに授業についていくまでの語学力の習得まではいかないまでも、友達と遊んだり日常的な会話ができる子どもが一人でも増えるよう各校に導入していただきたい。 また、中学校の学校訪問時にオンラインでの様子を拝見したが、画面越しの指導はなかなか難しい印象を受けた。</p> <p>(学校教育課長) 特に低学年に対する動画による指導は困難で、対面での指導がベストであると判断しているが、どうしても取りこぼしてしまう子どもたちが一定数いるため動画を使って指導することもある。</p> <p>(榊原委員) 一般質問にて様々な質問や指摘などあったが、議員からの具体的な提案などはないか。</p> <p>(教育部長) 中村議員は拠点校を設置すべきとの提案も含んだ質問で、先ほど説明した課題などもあり設置する考えはないが、外国籍の子どもたちを支援しなければならない点では議員とは思いを共有している。 また、教育委員会が取り組むべき4つのチャレンジ項目として ①部活動の見直しによる教員の働き方改革の問題 ②愛知県が派遣する定数の考え方の問題 ③地域や行政がやるべき仕事が教員に傾向している問題 ④学校の中にある特別支援の問題 これらは、鈴木議員とも問題意識を共有する中で、今後解決に向けて進めていく。</p>
<p>4) 「各種事業」について ・夏休み親子公共施設見学について</p>	<p>(生涯学習課長) 市内の公共施設について理解を深めるとともに、子どもたちが将来の夢や目標を描くキャリア教育の一環として、夏休み親子公共施設見学を実施するもの。開催方法は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、昼食時間をさけて、午前・午後の半日コースとする。</p>

	<p>8月9日（火）に市内在住の小学生とその保護者を対象に、定員は各回15名までとし、午前中は「消防士のお仕事を体験しよう」と題し知多広域消防指令センターと半田消防署を見学。午後は「普段見られない施設の裏側をのぞいてみよう」と題し、半田空の科学館と半田市立図書館・博物館の裏側ウォッチングを行う。</p> <p>どちらかのコースを選んで申し込んでいただき、定員を超えた場合は、抽選で参加者を決定する。</p> <p>（榊原委員） 親子公共施設見学会にある博物館の裏側ではどんなものが見られるか。</p> <p>（博物館長） 収蔵庫で展示されていないが歴史的に価値の高いものなど普段見られないものを見学いただく。</p> <p>（久米委員） 親子公共施設見学会の申込で、子どもの数は保護者1名に対し2名までとあるが、3人兄弟の場合はどうなるか。</p> <p>（生涯学習課長） ご両親に参加いただくなど、保護者による監督徹底をお願いする。</p>
<p>・子ども科学体験教室について</p>	<p>（生涯学習課長） 小学生に科学体験の楽しさやものづくりのおもしろさを体感してもらうこと、またご協力いただく企業や団体のスタッフとの触れ合いの機会を提供するもの。</p> <p>日程は8月20日（土）13：00～16：00とし、会場は雁宿ホールで開催する。</p> <p>協力企業・団体は、小中学校理科部会をはじめ11団体で、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を施して開催するため、令和3年度同様、参加者を事前申し込み制とする。また、昨年度中止した開催当日の中学生ボランティアを今年度は各中学校に依頼する。</p> <p>（委員からの質問等なし）</p>
<p>・ものづくり教室について</p>	<p>（生涯学習課長） JFEスチール株式会社知多製造所のご協力をいただき、夏休みの子どものために、ものづくり教室を開催するもの。昨年度同様、昼食時間をさけて半日の教室とし、午前・午後の2回に分けて開催することとし、日程は、8月4日（木）、会場はJFEスチール株式会社知多製造所。対象は小学校5・6年生とし、内容は製鉄所の概要説明と鉄のオリジナルキーホルダーづくりを行う。</p> <p>（委員からの質問等なし）</p>

<p>・まなびとゼミ夏休み特別講座・夏いち体験講座について</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>ゲストティーチャーが企画する夏休みの特別講座として、教えたい人が教え、学びたい人が学べる環境を提供し、市民の生涯学習の推進を図るもの。</p> <p>数日間に渡る講座と、7月30日(土)は、1日に集中して雁宿ホールで開催する夏いち体験講座となっている。未就学児から参加いただける講座や親子講座の全15講座を開催する。子どもたちの夏の体験講座として、楽しんで学習に取り組むことができる内容となっている。</p>
<p>・新美南吉読書画コンクールについて</p>	<p>(図書館長)</p> <p>市内小中学校の児童生徒を対象として、南吉作品の楽しさ、すばらしさに親しむ機会を増やし、本を読んだ感想を絵にすることにより表現力を養うことを目的に、読書感想画を募集するもの。</p> <p>応募締切は9月14日(水)で厳正な審査のもと、半田市長賞はじめ4点と優秀賞5点及び優良賞を選定し、上位9点については12月4日(日)に図書館で表彰式を行う。また、受賞作品は、図書館および新美南吉記念館にて展示を予定している。</p> <p>(榊原委員)</p> <p>新美南吉読書感想画コンクールでは、以前表彰式に参加した際に素晴らしい作品が選ばれていた。コンクールをやるからには、対象となる児童生徒のモチベーションが上がるような仕組みや、南吉記念館との連携などはどのようになっているか。</p> <p>(図書館長)</p> <p>南吉記念館と直接的な連携はないが、入賞者に家族招待券を贈呈する。</p> <p>(南吉記念館長)</p> <p>記念館での展示のほか、記念館だよりへも掲載している。</p> <p>(榊原委員)</p> <p>応募する児童生徒のモチベーションが上がるような取組みにより、さらに素晴らしい作品が出てくることが期待できるので是非とも推進してもらいたい。</p>
<p>・「夏休みは図書館へ行こう」(夏休みの図書館行事)について</p>	<p>(図書館長)</p> <p>夏休み期間中に図書館で開催する行事として、「感想文おたすけブックトーク」は、小学1,2年生を対象に司書が感想文におすすめの本を紹介し、感想文の書き方のポイントを説明し宿題のお手伝いをするもので、7月21日に亀崎図書館、22日に本館で開催し、本館では、図書館のお仕事体験も実施する。</p> <p>「お仕事ファイル～映像作家の仕事～」は、様々な職業の方に仕事の楽しさ、難しさややりがいなどをお話していただき、子ども達の社会への関心を深め、未来設計に役立ててもらうことを目的とした企画で通算28回目となる。今回は、長年ドラマや映画な</p>

	<p>どの制作に携わってきた半田市在住の石川清和さんを講師に迎え、映像を作る仕事について7月23日(土)にお話しいただく。</p> <p>「夜の図書館・博物館で怖〜い話を聞く会」は、昨年度から博物館と共同開催している行事で、8月5日(金)に閉館後の図書館・博物館で怪談話を聞いたあと、博物館のミニツアーを開催するもの。</p> <p>(桂委員)</p> <p>「夏休みは図書館へ行こう」のうちお仕事ファイルの参加対象者は、中学3年生までとなっており企画的にも中学生に興味があるものと思われるが、中学校にはチラシを配布しないのか。</p> <p>(図書館長)</p> <p>チラシの配布はないが、市報やホームページ、ポスターで広報していく。</p> <p>(桂委員)</p> <p>中学生が市報を手取ることは現実的にはあまりなく、広報の手段として情報を目にする機会をつくることや生徒の手元に直接届くチラシの配布など検討してもらいたい。</p> <p>(図書館長)</p> <p>中学生への広報については検討する。</p>
<p>・特別展「南吉の昭和17年」の開催について</p>	<p>(南吉記念館長)</p> <p>新美南吉記念館では、7月16日から特別展「南吉の昭和17年」を開催。</p> <p>新美南吉は死の前年である昭和17年に後期の代表作のほとんどを集中的に書いている。これは同年10月に出版した初めての童話集『おぢいさんのランプ』と死の半年後に出た童話集『牛をつないだ樁の木』『花のき村と盗人たち』の計3冊の童話集を出すためである。しかも春から初夏にかけての数か月に集中しており、奇跡のような創作といえる。これらの作品がどのような心境で生まれたのか、時代背景も織り込みながら紹介する。展示品の目玉は、棟方志功が描いた第一童話集のための挿絵原画で、当館に収蔵しているものを9年ぶりに展示する。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>・新美南吉生誕祭の開催について</p>	<p>(南吉記念館長)</p> <p>半田市では生誕100年の翌年の平成26年から南吉の誕生日を「南吉さんの日」と呼び、7月30日(土)は南吉さんの109回目の誕生日となる。</p> <p>コロナの影響により今年は3年ぶりに式典を開催し、110歳の誕生日までのカウントダウンボードのお披露目、半田出身のミュージカル女優・間瀬富未子さんによる歌などを行う。</p>

	<p>そのほかにも翌日の日曜日にかけて、読み聞かせ人形劇やお話し会、工作系のワークショップなど盛りだくさんの2日間で110年のプレイベントとしてたくさんの市民にお越し願っている。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>各課からの事務連絡</p>	<p>(博物館長)</p> <p>郷土の自然や歴史に触れ親しんでもらい、地域の文化に愛着と誇りを感じてもらうことを目的に、次代を担う子ども向けの文化財講座を開催するもの。</p> <p>昨年度は、市のバスを使って、市の指定有形文化財建造物である、半田ハリストス正教会の聖イオアン・ダマスキオン聖堂を見学する予定であったが、コロナのまん延防止措置等重点地域となっていたことを受け中止していた。</p> <p>年度当初の文化財専門委員会において、現地集合、現地解散が可能で、屋外や屋外に準じる文化財の見学とした方が良いとの助言から、今年度は半田運動公園内の大池古窯を見学することとした。</p> <p>実際に現地を発掘調査した、当館の元学芸員、近藤英正氏を講師に、実際の土器に触れる体験講座として7月23日(土)に開催し、事前申込制で、10時30分からと11時30分からの2回行う。</p> <p>(博物館長)</p> <p>博物館講座「化石を発掘しよう!～木の葉化石編～」として、7月24日(日)と8月6日(土)に開催するもの。</p> <p>数十万年前に堆積した地層(栃木県那須塩原市)の岩石ブロックを割って木の葉の化石を見つけ、見つけた化石は持ち帰ることができるほか、夏休み期間中は博物館で展示する。化石発掘体験のほかにも、化石についての基礎知識や知多半島で見つかる化石についても解説を行う。</p> <p>(博物館長)</p> <p>博物館講座「天然石できれいな万華鏡を作ろう!」として、8月14日(日)に開催するもの。</p> <p>オブジェクトに小さな天然石(鉱物)を使った液体万華鏡を作り、液体の中で天然石がゆっくりと動くことで、様々な模様が美しく移り変わっていく様子を楽しんでもらうとともに、鉱物の性質や万華鏡のしくみについても解説を行う。</p> <p>(博物館長)</p> <p>「旧中埜家住宅オリジナルポストカードプレゼント」として、7月7日(木)から31日(日)までの間、博物館にお越しいただいた希望者の方に旧中埜家住宅のオリジナルポストカードをプレゼントするもの。</p> <p>ポストカードは、近隣地域の方が描いたイラスト作品を使用している。</p>

	<p>(博物館長)</p> <p>「山車の展示」として、4月3日(日)から博物館に展示していた乙川西山様の神楽車(かぐらぐるま)は、6月26日(日)に、解体、搬出され、同日、板山大湯組様の花王車(かおうしゃ)が搬入され、燻蒸も完了。</p> <p>この後、7月3日(日)に板山大湯組様の花王車(かおうしゃ)の組上げが行われ、10月23日(日)まで展示予定。</p> <p>(博物館長)</p> <p>図書館・博物館の喫茶コーナーの喫茶店の名前が、「みんなのもりCafe」に決定し、現在着々と準備が進んでおり、7月7日(木)にオープンする予定である。</p> <p>(生涯学習課長)</p> <p>来月の定例教育委員会終了後に委員の皆様にお時間をいただき、青少年健全育成活動補助金の審査会を開催したい。当該補助金制度の見直しとして令和3年度より活動を地域に移行したことにより補助申請に対する審査として開催するもの。</p>
<p>委員からの意見 提言</p>	<p>(正村委員)</p> <p>子どもたちのマスクについて、登下校で外している児童をあまり見ることがなく、熱中症の心配があるなかで学校からの指導はあると思うが、半田市として登下校時はマスクを外すとした、統一的なルールを提示することでマスクを外す児童が増えるのではないか。</p> <p>(主任指導主事)</p> <p>現状として、一定の距離が保たれていることや屋外ではマスクを外そうと学校へは通知しており、学校からも保護者へは案内しているが、登下校や体育の授業のときはマスクを外すなど、一定のルールを設定することはしていない。</p> <p>家族に持病を持った方がいるなど、マスクを外すことへの抵抗感を持っている子どもも一定数いることから、必ず外す指導はできない現状である。</p> <p>ただし、体育の授業では、教員が率先してマスクを外すことで子どもたちへの勧奨を図る工夫などは行っている。連日のように熱中症で搬送されたという報道があるので、その都度学校へはメールで注意喚起を行っている。</p> <p>現在、一定のルールを決めることは考えていないが、各学校には引き続き指導助言を行っていく。</p> <p>(新美委員)</p> <p>コロナ禍の3年間で多くの時間をマスクを付けた生活の影響で、卒業後に同級生の顔がわからない事態になりかねないことから、例えば小学校の3年生までは、ある程度の教室でもマスクを外してもいいといったルール設けるなど、大きな決断が必要な時期ではないかと感じている。</p> <p>家庭の事情などから無理に外す必要性はないにしろ、子どもたちがマスクを外しやすい環境づくりとして、外に出るときは基本的には先生はマスクを外すなど、一定のルール等</p>

	<p>はあってもいいと思っている。</p> <p>(久米委員) 新美委員の意見と同じである。</p> <p>(桂委員) この数日の猛暑でマスクをした登下校の姿を見ていて怖さを感じていた。おそらくマスクを付けることに慣れてきていることもあり、何か言われないと外せない状況になっていると思われるため、明確に外すことを訴えかけるメッセージなどがあると、外すきっかけにつながるのではないかと。</p> <p>(新美委員) 普段の生活の中でもマスクに対する意識が過剰になっていると感じており、先生だけではなく大人たちが外せるときは外す姿勢を示さないと子どもたちに影響してこないと思っている。</p> <p>(教育部長) 幼稚園の状況を申し上げると、園児にはマスクを外していいと案内しているが保護者の意向でマスクを付けてくる園児もいる。そうした感染リスクを警戒する保護者がいるなかで、先生は必ずマスクを付けざるを得ない状況にあり、積極的に教員がマスクを外すことはできないと判断している。</p> <p>(教育長) 場面に応じてマスクを外せるときは外すなど各学校には働きかけていくが、慎重に判断せざるを得ないことでもあるので、各学校と協議しながら取り組んでいく。</p>
<p>次回開催等</p>	<p>(事務局)</p> <p>7月定例教育委員会 日時：7月26日(火) 10時00分～ 場所：半田市役所 庁議室(4階)</p> <p>8月定例教育委員会 日時：8月24日(水) 14時00分～ 場所：半田市役所 会議室303</p> <p>9月定例教育委員会 日時：9月22日(木) 10時00分～ 場所：半田市役所 会議室303</p> <p>総合教育会議 日時：9月28日(水) 10時00分～ 場所：半田市役所 庁議室(4階)</p> <p>(教育長) 6月定例教育委員会を終了する。</p>

〈 閉会 11時40分 〉